

マハタのへい死低減に係るハダムシ早期確認手法

ハダムシ症の問題点

- マハタの養殖でハダムシ被害が深刻
 - ・ 体表スレ、ウイルス病等の二次感染→大量死(全滅することもある)
- ハダムシは魚体上で産卵し、卵は網地に付着。
 - ・ ライフサイクルが短く、短期間で爆発的に増加。
- 薬浴、投薬は効果があるが、網地に卵が残っているとすぐ再発。
- 夏季の薬浴は魚へのストレス大。



ハダムシ

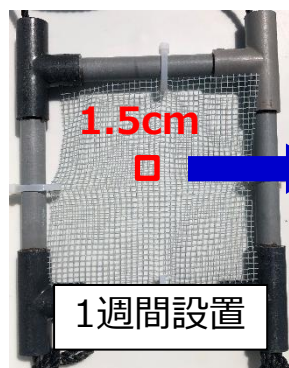
↓ 被害を低減させるには

ハダムシの感染をいち早く発見し、早期に対策を講じる

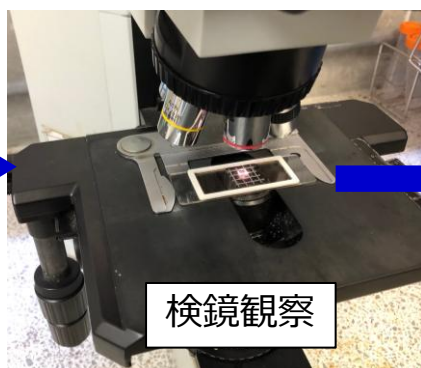
- 生簀に小さな網（目合5mm程度）を1週間程度設置
- 持ち帰って1.5cm角切片を検鏡することで、**付着するハダムシの虫卵の個体数からハダムシの蔓延の度合いを推定できる。**

虫卵数	判断	対応
0～10個	平常	対策不要
10～20個	蔓延のおそれ	駆虫薬の投薬を検討
20個以上	蔓延	速やかに薬浴+網替えを実施

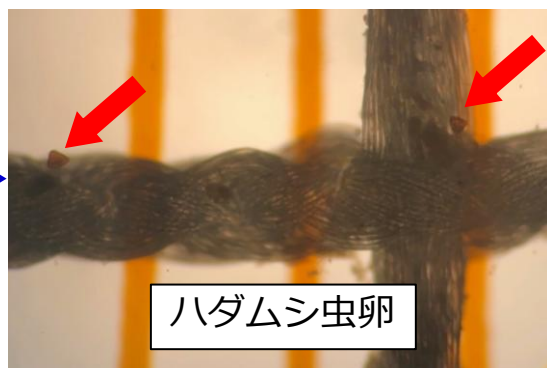
- 実績：**早期対策できた漁場 → 生残率9割以上** ⇒ **早期対策が重要！**
対策が遅れた漁場 → 生残率1～3割



1週間設置



検鏡観察



ハダムシ虫卵



三重県水産研究所 尾鷲水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒519-3602 尾鷲市大字天満浦字古里215-2 TEL (0597)22-1438 FAX(0597)22-1439